

# NID News

2010 January

006

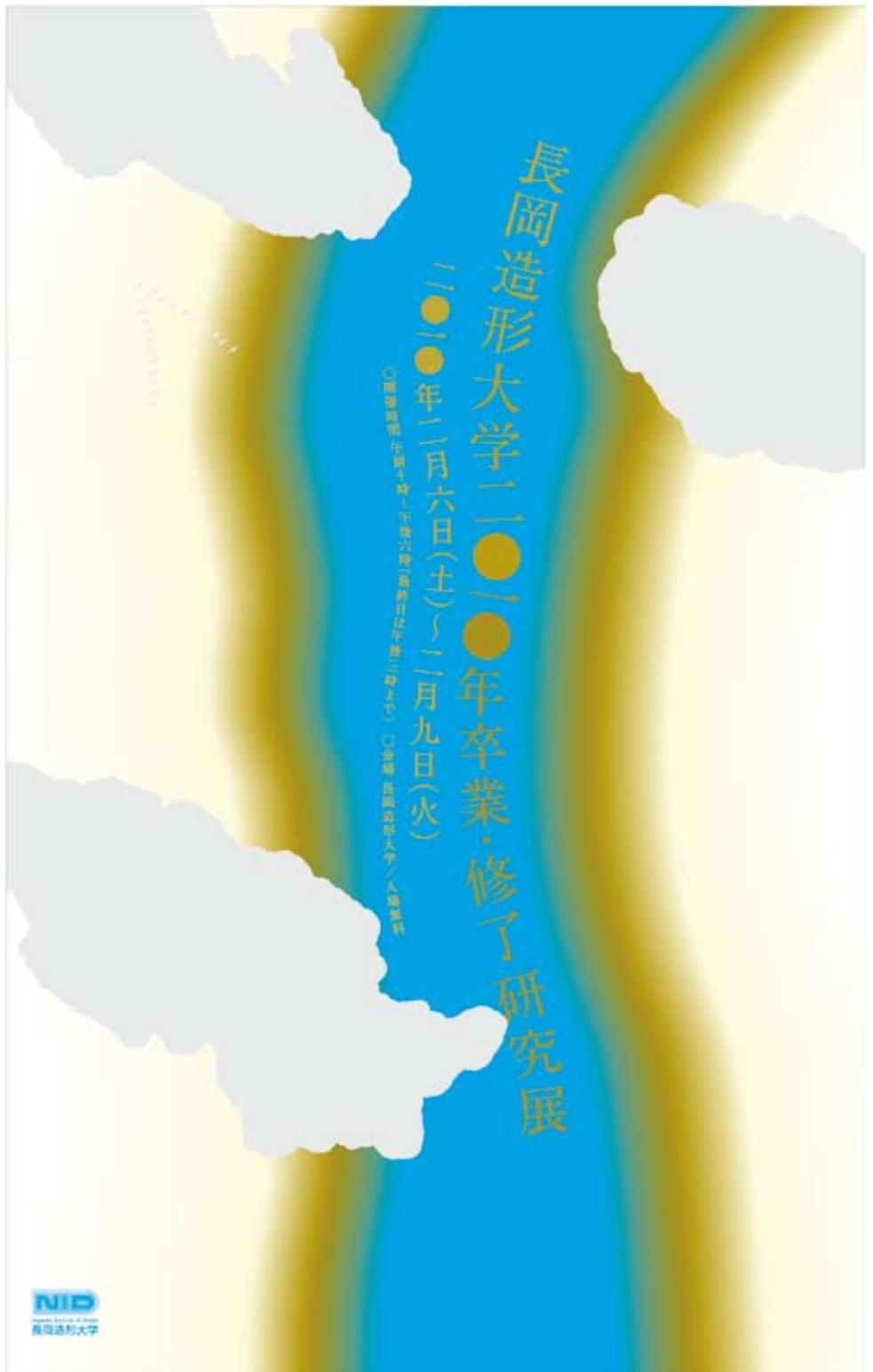


# 卒業・修了研究展

特集

2010  
2.6<sup>土</sup>~9<sup>火</sup>

「卒業・修了研究展」は、大学を巣立ち、社会へと大きく羽ばたいていく学部卒業生・大学院修了生が学びの集大成を発表する、NID最大のイベントです。発表の舞台となるのはNIDキャンパス全体。期間中は個性溢れる作品が学内を彩り、キャンパスが美術館へと様変わりします。NIDキャンパスの特性をうまく利用し、趣向を凝らした展示風景にもぜひ注目してみてください。皆様のご来場お待ちしております。



## 卒業・修了研究展 開催にあたって

卒業生・修了生の皆さんへ

たくさんの労力と時間をかけた皆さんの研究成果を披露する卒業・修了研究展がいよいよ開催されます。苦勞をともにした学友や皆さんの後に続く在學生、また近隣の皆様に各々の研究を発表する場をもてる事はなんと喜ばしい事でしょう。指導にあたった教員の一人として感慨深くこの時を迎えようとしています。

近隣や企業の方々、高校生の皆様へ

この度の卒業・修了研究展は、学修の成果であると同時に、友人たちと過ごした学生生活や、地域の様々な方々との親交によって生まれ、結実したものと私は確信しています。自らを見つめ自分の内面を深く掘り下げていく研究。社会に目を向けコミュニティの形成を目指す研究。新たなライフスタイルを提案する生活者の視点に立脚した研究等々。各々のテーマと真摯に向き合い、持てる力をすべて注ぎ込んだ力作が大学の校舎にひしめき合っています。この大地に育まれた作品の一つひとつが眩い光を放っています。学生たちの胸の鼓動が伝わってくるような活き活きとした展示をどうぞ、ご覧になってください。



卒業・修了研究展幹事長  
視覚デザイン学科 教授  
長谷川博紀

## 4年生インタビュー

卒業・修了研究展で作品、論文を発表する各学科の4年生に質問しました。

Q1 卒業研究で取り組んでいる研究の内容 Q2 キャンパスライフで印象に残っていること Q3 NIDで身についたチカラ Q4 卒業後の目標や夢

### 石田 夏々子

現 プロダクトデザイン学科

所属：ものデザイン学科

プロダクトデザインコース／4年

出身：長岡工業高等学校（新潟県）

マイブーム：Wii



**A1** 「やわらかい収納」というテーマで、布の表情を利用して物を収納する、布製のパネルを制作しています。4種パターンがありそれぞれ適した布が異なるため、統一感を出すことに苦労しています。今後の課題は、パネル同士の連結について検討することです。

**A2** 昨年の夏にプロダクトデザインコースのメンバー中心にバトミントンが流行り、NIDホールで汗だくで遊んでいたときのことです。男女関係なく全力で遊ぶので、毎回シャトルを数個駄目にしましたが… いい思い出になっています。

**A3** プロダクトデザインを専攻すると多くの場面でプレゼンテーションが必要になります。人前で喋ることが不得意でしたが、数をこなすことで苦手意識が少なくなりました。

**A4** 県内の家庭余暇製品などを製造する会社に就職が決まりました。

商品開発に携わり、自分が興味を持っているベビー用品をデザインしたいという夢がありますが、とにかく様々な製品に関わり、人に喜ばれる商品を多く作り出せるようになることが目標です。



← 卒研作品のラフモックアップ

### 山崎 由里奈

所属：視覚デザイン学科

デジタルデザインコース／4年

出身：三条商業高等学校（新潟県）

マイブーム：「君に届け」（少女マンガ）



**A1** どんなモノにも生命は宿っているのかも知れない。という考えから、様々なモノに当てることによって心臓の音が聞こえ、光で拍動が確認できる聴診器を作りました。あるはずのない心臓の存在から生命を意識したとき、人はモノに対してどんな感情を抱くかを問うメディアアートです。

**A2** 研究室の真壁先生とデジタルデザインコースの親しい仲間で飲み会をたくさんしたこと。大きな課題が終わったあとに開催して、お互いを労い合いました。真面目なデザインの話もしつつ、くだらない話を楽しく語り合った時間はかけがえのないものです。

**A3** 一つのアイデアを実現させるために、何通りもの制作方法を考えるようになりました。自分が手を出しやすい方法だけにとらわれず、他の道を探ることで完成することもあるのだと知りました。

**A4** これまでの作品を磨き直し、どこかで発表したいです。そしてこれからも創作を続け、作品を通じて色んな人と交流していきたい

です。自分が作って「かわいい」と思えるもの、「たのしい」と感じられるものが、誰かを喜ばせられたら幸せだと思います。



← 卒研作品「みんな生きている」

### 安達 久美子

現 美術・工芸学科 金属工芸コース

所属：ものデザイン学科

工芸デザインコース／4年

出身：中越高等学校（新潟県）

マイブーム：さまざまな素材のヘアアクセサリーを集めること



**A1** 彫金を学び、「循環」というテーマを金属で表現します。循環という不定形のモノを造形することに苦労しましたが、自分で思考し出てきた形ならば、つまずいた時の答えも必ず自分の中にあるということを感じて、日々頑張っています。

**A2** 友人とふざけ、大真面目に遊んだ思い出です。はしゃぎすぎて怒られたり、課題の締め切りに間に合わず焦ったり…と、楽しみながらも「痛い目を見る」という大切なことを学びました。

**A3** 『度胸』です。自分の作品のプレゼンテーションやサークルでの役割などでは、自分を表現し見せていかなければ他人には伝わりません。一人ひとりの人間性や個性を認め合えるNIDだからこそ、得られ育まれるチカラだと思います。

**A4** 卒業後はインテリア雑貨を扱う会社での勤務となりますが、いくつになっても工芸に関わって生きていきたいと思っています。そ

の中でもぼおっと暖かな明かりを灯し、元気や笑顔を与えられるような、そんな力強い人間でありたいと思います。



← 卒研作品イメージ

### 荒川 景子

現 建築・環境デザイン学科

所属：環境デザイン学科

ランドスケープデザインコース／4年

出身：国際情報高等学校（新潟県）

マイブーム：温泉、箱根駅伝



**A1** テーマは身の周りの「音」です。地元新潟県の塩沢をケーススタディとして、塩沢らしい音とは何か、記憶に残る音とはどのようなものかを探っています。普段意識することの少ない音の世界は、とても奥深く難しいのですが、その分やりがいを感じています。

**A2** 昨年の夏に新潟市の亀田で仲間7人とグループ展を開催したことです。「22歳の気になること展」と題し、3日間で約100名の方々に来場頂きました！私は「音」に関する映像作品を出品しました。来場者の方々の反応や仲間の作品はとてもよい刺激になりました。

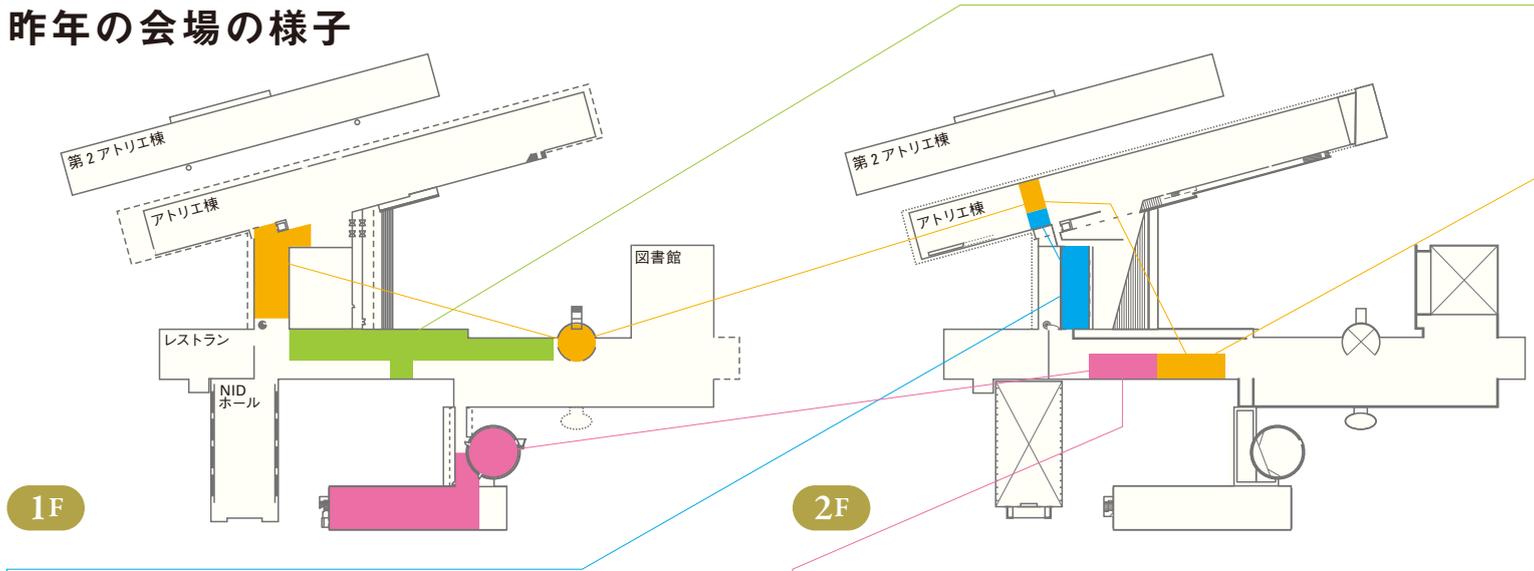
**A3** 課題に取り組む中で、「自分の得意なこと・好きなこと」は何か、そしてそれらは「どんな風に人の役に立つのか」をたくさん考え、表現するチカラが身につきました。

**A4** 「楽しく過ごして誰かの役に立つような生き方が出来たら」と考えています。大学生活を通し、たくさんの方々と出会い「楽しく過ごして」きました。今後も積極的に経験を積んで、出会った方々に何か恩返し出来るようになりたいです。



←「音」をつくりだす装置

# 卒業・修了研究展 学内展示マップ ※予定 昨年の会場の様子



1F

2F

## 📌 ものデザイン学科 プロダクトデザインコース



## ♥ 視覚デザイン学科 ビジュアルデザインコース、写真・映像デザインコース、デジタルデザインコース



※色分け、アイコンは現在の学科区分で標示しています。

## ものデザイン学科 視覚デザイン学科

工芸デザインコース、テキスタイルデザインコース、  
オブジェティブアートコース

ビジュアルアートコース

## 環境デザイン学科



新潟駅、長岡駅から会場まで無料シャトルバスを運行します。運行日 2/6 土・7 日

### 【事前申込必要】



新発田駅  
(東公園前)  
発車時刻  
09:00  
大学発  
16:00



新潟駅  
(南口バス乗り場)  
発車時刻  
10:00  
大学発  
16:00

### 【事前申込不要】



長岡駅  
(大手口セーブオン向い)  
発車時刻  
10:00 / 12:00 / 14:00  
大学発  
13:30 / 15:30 / 17:30

※新発田駅・新潟駅からのバスをご希望の方は、電話またはEメールにて事前にお申し込みください。 ※新発田駅からのバスは新潟駅経由となります。

申込締切：2月4日(木) 17:00まで

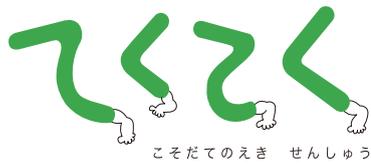
お申し込み・お問合せ先：入試広報課 〒940-2088 新潟県長岡市千秋 4-197 Tel.0258-21-3331 Fax.0258-21-3343

E-mail nyushi@nagaoka-id.ac.jp <http://www.nagaoka-id.ac.jp/>

# D デザイン研究開発センターのプロジェクト

Design Research and Development Center Nagaoka Institute of Design

デザイン研究開発センターは、開学と同時に大学の付属機関としてスタートし、デザインというカテゴリーで地域社会と密着した活動を行ってきました。その目的は、大学での教育研究成果を広く公的機関や団体・企業等に伝えること。また企業等との共同研究を推進し、教育研究の発展および地域社会における創造的研究開発に寄与することです。



こそだてのえき せんしゅう



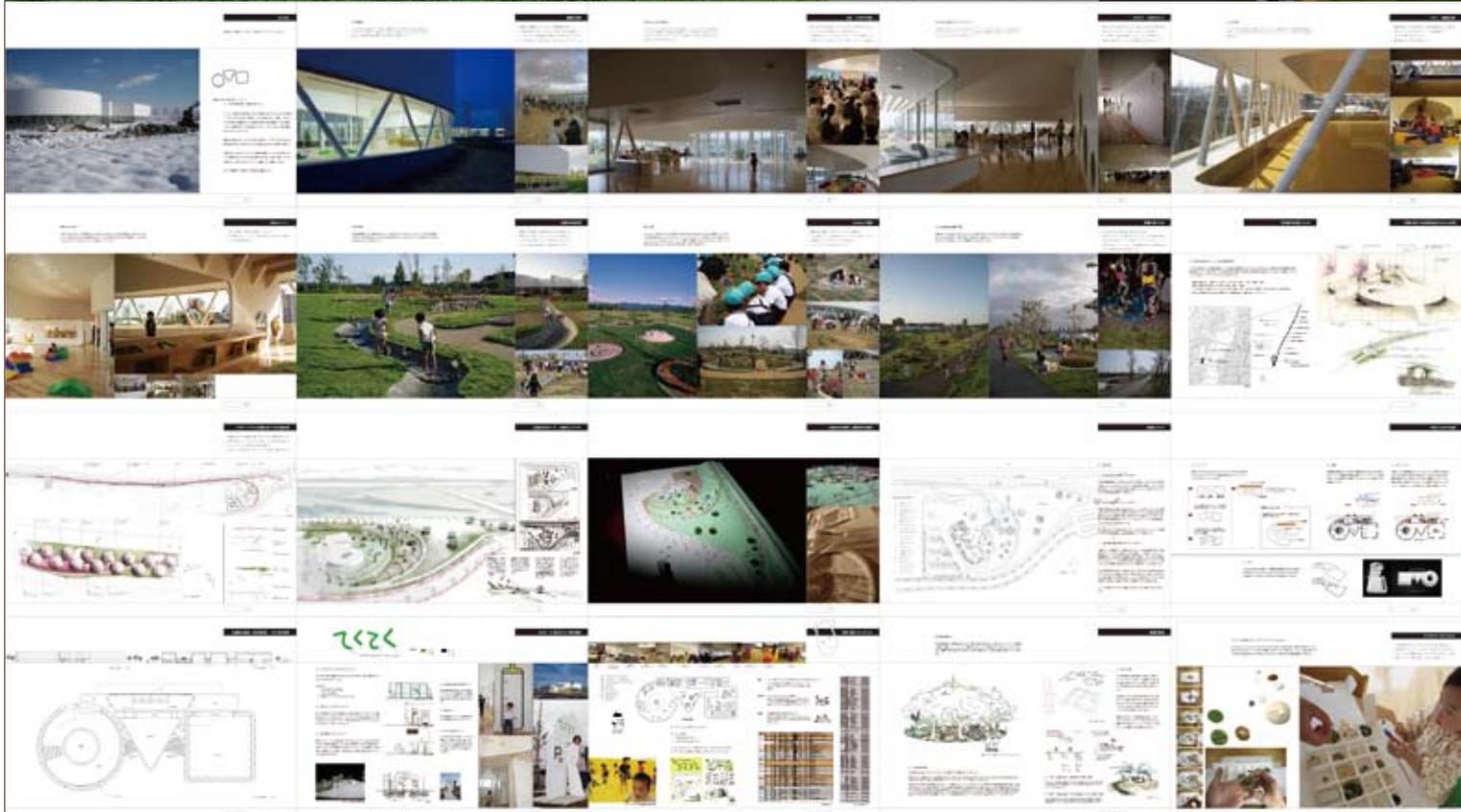
千秋が原地区全天候型施設デザイン設計業務／発注者：株式会社長建設計  
 千秋が原南地区公園デザイン設計業務／発注者：株式会社グリーンシグマ  
 信濃川桜つつみデザイン検討／発注者：長岡市  
 千秋が原南公園（仮称）全天候型施設 遊具等実施設設計業務／発注者：長岡市  
 千秋が原南公園（仮称）全天候型施設 サイン・ロゴ・パンフレット等デザイン制作業務／発注者：長岡市  
 プロジェクト主査 山下秀之  
 チーム 山下秀之、江尻憲泰、上野裕治、山下真理子

山下研究室 / 武井奈津美、桑野洋紀、丹洋祐、成田愛、石黒健一、廣田真治、松井圭太、諏方優樹、山岸悠、沼田聡、野口裕也  
 柿崎洸哉、諏佐圭太郎、渡辺宣一、ケ・エム・イフテカル タンヴィル



## 長岡市子育ての駅千秋「てくてく」 & 千秋が原南公園 + 信濃川桜つつみ

「てくてく」（愛称は市民投票による）は、雪国の冬に子どもたちが広い屋内スペースで、のびのびと遊べる場をつくらうと計画された。「公園と一体となっている子育て支援施設」として全国初の試みである。建築／2haの公園／1.2kmの信濃川桜つつみ遊歩道からロゴマークにいたるまで、密に関連しあうデザインになっている。建築は、雪国の冬に、子どもたちが広い屋内スペースで、のびのびと遊べる場を提供するものである。○△□の平面形はゆるやかに空間を分節する。公園と桜つつみには「えんえん」（小規模な造園ユニット）がちりばめられている。信濃川桜つつみの2本の遊歩道は、寄り添い、交差し、離れ、その1本が桜並木一列をひきつけてクロノイド曲線となり、建築にいざなう。オープン直後より、市民にとっても愛される場となり、建築単体では4ヶ月間で10万人の利用者を数えた。



主な活動には優れた商品デザインや環境デザインの提案、企業等との共同研究や受託研究、企業の技術者に対する高度技術の教育や研修、企業に対する学術情報の提供等があります。

デザイン研究開発センター長 美術・工芸学科教授 鈴木均治

## 受託事業 長岡市立和島小学校新築工事

発注者 長岡市

受託期間 2007年8月～2009年3月

プロジェクト主査 後藤 哲男

建築設計 (有) 後藤設計室・アーキシップ帆

構造設計 (有) 江尻建築構造設計事務所

長岡市立和島小学校は、旧和島村の島田小学校と桐島小学校が統合され、平成21年4月に開校しました。

和島地区は良寛の終焉の地です。子供達はこのふるさとでのびのびと育ちます。

200年前の良寛の想い、旧和島村の方々の共育の里構想を、小学校という形に結実させました。のどかな農村集落をイメージし、子供達のしなやかな体と感性にふさわしい素材を選び、新潟県の雪に耐えぬいた杉材をふんだんに使った木造平屋建としました。校舎は地域に開かれており、毎日が参観日のようです。

地域の文化の拠点、防災の拠点でもあります。



配置図



管理棟



グラウンド



ランチルーム



講堂



低学年教室



中高学年教室

# 研究室紹介

## introduction

NIDには先生の数だけ個性溢れる研究室があります。各研究室で先生や仲間とさまざまな活動に取り組む学生の様子をご紹介します。

### 松本明彦 研究室

#### 東京工芸大学×長岡造形大学有志合同写真展'09

きっかけは、あるイベントで東京工芸大学の酒井先生とお会いした時でした。「何か一緒にやりたいですね」そうお声掛けしたのは、2008年の初夏のことでした。それでは「両校学生の合同写真展を、両校で開催し

ましよう」ということになり、あれよあれよという間に、その年の秋には第一回目の東京工芸大学×長岡造形大学有志合同写真展'08を開催。両校の自然や教育環境、教育理念、カリキュラムの違いが出た、とても興味深い写真展になりました。

そして昨年の秋はその第二回目。前回の合同展では、両校教員がお互いの大学に向き、トークショーを開催しました。そこで今年は学生主体でやってもらおうと、両校がお互いの大学を会期中訪問すると共に、学生がプレゼンテーションをするという企画にしました。東京工芸大学での合同写真展開催中の長岡造形大学生公開プレゼンテーションに続き、11月には長岡造形大学での合同写真展開催中に東京工芸大学生の公開プレゼンテーションも行われました。



やはり両校の作風やプレゼンテーションに違いが感じられ、両校学生にとって、学ぶべき点が多かったのではないのでしょうか？

プレゼンテーション後は、お互いのブックを見せ合い、食事をしながらの懇親会も開催され、大いに親睦を深めたこともまた有意義でした。

松本明彦教授（視覚デザイン学科）  
専門分野：写真によるアート表現。カーデザイナーを経て、写真家に転身。1988年、川口吾妻氏とのコラボレーションに拠るデジタルフォトのアート作品「D-graphy」を発表。以来デジタルフォトの先駆者として、国内外のギャラリー、美術館で作品発表多数。



### 新海俊一 研究室

#### 大地の芸術祭 2009「里山カーゴ」プロジェクト

昨年の夏、第4回大地の芸術祭に新海研究室が長岡造形大学の研究室チームとして初参加しました。作品名は「里山カーゴ」。このプロジェクトは藤澤研究室（当時）と共同で作品公募に応募して採択されたものです。昨年の春、藤澤准教授が昭和女子大学に異動され、期せずしてNIDと昭和女子大学のコラボレーションとなりました。NIDからは1年生～4年

生の意欲的な学部生、卒業生ら20名ほどが参加して作品制作、運営に関わりました。

新海研究室では、これまでもTEPCOプラザ柏崎でのクリスマスディスプレイや、国営越後丘陵公園でのライトアップイベント、福祉施設のガーデンコアなど、学外で数々のデザインワークに取り組んでいます。授業の合間を縫ってのデザインワークは大変ですが、デザイナーの卵である学生が自らの提案を社会に提示できる貴重な機会なので皆精力的に取り組めます。各プロジェクトでは企画・積算・デザインから制作・設置まで、本格的なデザイン業務を一通り体験できます。こうした活動に参加した学生達は皆、卒業後に建築設計やデザイン、まちづくりの分野で活躍しています。



「里山カーゴ」プロジェクトでは、準備から会期終了まで約100日間活動が続きました。会期前は作品設置場所である十日町市新屋敷に毎週末通いましたが、会期中は集落のふれあいセンターに滞在させていただき、メンバーは寝食を共にしながら作品の一部である「里山カーゴ農園」の手入れや収穫、展示作品の制作を続けました。

このプロジェクトを通して、お世話になった集落の方々や全国から訪れた作品鑑賞の方々、ともに作品制作・運営に当たった昭和女子大学の学生達との一夏のふれあいから、NIDの学生達はたくさんの思い出とともに、デザイナーを目指す上で大切なものをつかみ取ったようです。

新海俊一准教授（建築・環境デザイン学科）  
建築史家・伊藤ていじ、建築家・原広司に師事。専門分野は建築計画、建築設計、デジタルデザイン。建築の設計、まちづくり、照明デザイン、立体造形などのデザインワークを幅広く手がける。博士（工学）、一級建築士。



# 人生に新しいスイッチを！

市民工房 2010 年春オープン

楽しいものづくりが経験できる。プロにだって、なれるかもしれない。  
気持ちのいい自然の中で、いつもの毎日をちょっと切りかえよう。  
あなただけのアイデアをカタチにする。長岡造形大学「市民工房」開講します。

長岡造形大学では、2010年春、市民工房を設立して市民の皆さまと一緒にものづくりの楽しさに挑戦していきます。市民工房の舞台は、現在建設中の第3アトリエ棟。初心者からスペシャリストまで誰もがものづくりを学べるフィールドをつくりあげます。陶芸、硝子、染織、純銀アクセサリーの多彩な4講座によるスタートを目指し、現在準備を進めています。人生に新しいスイッチを。  
市民工房で皆さんとともに、ものづくりをはじめる日を心待ちにしています。



今春の市民工房の本格稼働に向けて昨年9月よりプレ講座を開講しています。  
幅広い年代の方々から受講いただき、和やかな雰囲気ゆったりとものづくりを体験していただいています。

**1** 回目のプレ講座(9月~11月)では、陶芸、染織、純銀アクセサリーの各講座を開催しました。陶芸講座では、電動ろくろを使用し思い思いの茶碗や湯飲みを制作しました。はじめは四苦八苦していた受講者も、土まみれの手で器用ろくろの回転に合わせるように“生きも

の”を操っていました。染織の「染め」講座では、植物原料の染料を用いてシルクストールを染め上げました。青天の秋空に心地よくなびく、鮮やかに染め上がったストールが印象的でした。また、染織の「織り」講座では、今の季節に首元を彩るマフラーを制作しました。

卓上織り機を使用し、複雑に関係する縦横の糸をさばきながら「糸」から「布」へ形態を変化させ、好みのパターンのマフラーをつくりあげました。純銀アクセサリー講座では、銀粘土によるリングを制作しました。好みのデザインに形づくった銀粘土は焼

成すると純度99.9%の銀になります。これを磨き上げ、何処にも売っていないオンリーワンのシルバーリングが出来上がりました。



**2** 回目のプレ講座(12月)では、純銀アクセサリーに硝子を加えて講座を開催しました。硝子講座では、ガラス棒をバーナーで熱しながら球状にするトンボ玉を制作しました。直径2cm程度のトンボ玉の中にさらに花柄などの細工を加える作業には、受講者の皆さんは

苦勞していたようです。純銀アクセサリー講座では、クリスマス向けのメッセージペンダントを制作しました。自分の好みの言葉、大切な方へ贈るメッセージなど様々な思いをシルバーのペンダントに託していました。



上/楽しそうにろくろに向き合う受講生(陶芸講座)  
右上/作業が進むにつれ鮮やかなパターンが生まれます(織り講座)  
右中/講師の指導にも熱が入ります(純銀アクセサリー講座)  
右下/十人十色のストールが出来上がりました(染め講座)



左上/細かい作業に皆さん真剣です(硝子講座)  
左下/ステキなトンボ玉の出来上がり(硝子講座)  
右/普段口に出さない言葉をメッセージペンダントに込めます(純銀アクセサリー講座)

## 今後のスケジュール

2月: 3回目のプレ講座開催  
本講座の募集要項配布開始予定  
5月: 工房見学会開催予定  
本講座開講予定

プレ講座を通じて市民工房の感触をぜひ実感してみてください。  
市民工房に関する資料のご請求は下記までご連絡ください。無料でお送りいたします。  
お問合せ先: 企画推進課 市民工房準備室 〒940-2088 新潟県長岡市千秋4-197  
Tel.0258-21-3424 Fax.0258-21-3343 E-mail kikaku@nagaoka-id.ac.jp

学生&保護者の皆さんにとって  
有効な就職活動の情報を発信していくコーナーです。

## 大学から企業へのアプローチ

大学の就職支援において、学生相談や就職講座などと並び大きな柱の1つとして企業へのアプローチがあります。企業の採用担当者やデザイン部門の方との交流を通して採用についての貴重な情報を入手したり、求人への依頼や大学での説明会への参加依頼などを行います。今回はこの企業へのアプローチとはどのような活動なのかを紹介したいと思います。

**企**業へのアプローチの具体的な方法として、最も多いのは郵送による求人依頼です。企業から大学へ求人を依頼する場合、採用条件などを記載した「求人票」を提出してもらうのが一般的な流れです。過去に採用のあった企業や本学の専門分野で採用のある企業など年間3000社～4000社に郵送で本学の就職資料を送付し、求人を依頼します。

**次**に電話や訪問により、企業へのアプローチを行います。郵送だけでは大学から一方的に情報を送るだけですが、電話や訪問によるものであれば企業の採用状況や本学の就職について詳しく情報交換をすることができます。例年企業訪問として新潟県内だけでなく、東京はもちろん群馬や長野、遠くは名古屋や大阪の企業にも訪問し、その企業数は100社にもなります。実際に企業の担当者の方と顔を合わせて話をすることで、より詳しい情報を聞くことが可能となり、企業によっては何年も付き合いのある担当者の方もいます。

**企**業の方と話す内容は、本学からは大学の紹介としてカリキュラムや就職実績、学生の様子などを伝えます。企業の方からは募集内容や採用状況、仕事の内容から業界の話、また求める人材についての話を聞きます。企業により話をすることも人事採用担当であったり、デザイン部門の担当者であったり様々です。会社の規模によって社長自ら採用を行なっている場合は、直接話を聞くこともあります。また、卒業生が在籍している場合にはその仕事ぶりについての話も聞くことができ、場合によっては直接会うことができたり、仕事をしているところを見ることができたりもします。卒業生が活躍している様子を伺えるのは何より嬉しいことです。

昨年度の「学内合同企業説明会」の様子。  
企業採用担当者の方を本学に招き、学生が直接話を聞くイベントです。このようなイベントや講座への参加依頼も企業訪問時に行います。

**さ**て、企業の方からいろいろな話を聞く中で、最近以下のような話を多く聞きます。

- いわゆる「指示待ち」の傾向が強  
く積極性に欠ける
- マニュアル化した学生が多く、本  
音がわかりにくい
- この会社に入りたいという熱意が  
感じられない

等々学生に対しては、どうしても要望が多くなります。一方、本学卒業生の評価では、真面目でしっかりと仕事に取り組んでいるという声が多いように思えます。

**こ**のように企業との関係を深めることにより、求人がある時に声をかけてもらったり、大学での個別説明会や合同企業説明会、さらにインターンシップなど様々な取り組みに参加して頂けます。本学ではこのような付き合いのある企業が少なからずあり、就職支援において多大なご協力を頂いています。来年度に向け新卒採用状況はまだまだ厳しい状況が続きそうですが、就職進路開発センターではその対策の一つとして、企業へのアプローチをさらに拡大し就職支援を強化していきたいと思っています。

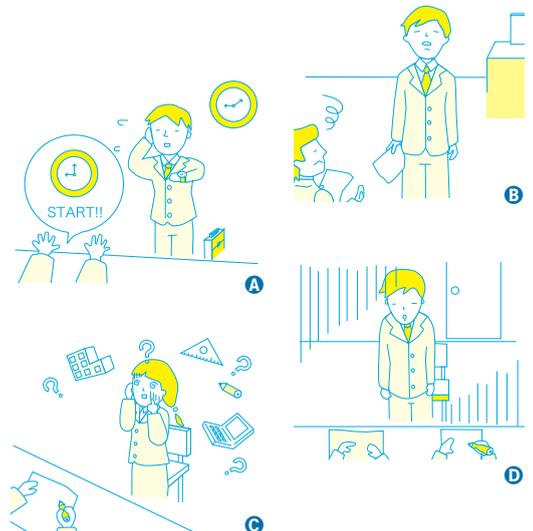


## 採用担当者に聞く「こんな学生は困る」

企業訪問などで企業の方から良く聞く、説明会や採用試験でNGとなる行為です。

- A** 連絡がしっかりできない。  
→ 説明会などで遅刻したのに、その連絡ができない。無断キャンセルするなど。
- B** 話を聞いているかどうかわからない。反応が無い。  
→ 説明者に頷く、メモを取る、積極的に質問するなどが必要です。
- C** 事前準備が不十分。  
→ 説明会の前などに会社のHPや資料など事前にしっかりと見ておきましょう。
- D** 挨拶がしっかりできない、元気がない。  
→ 元気に挨拶できるかどうかで、第一印象が違ってきます。

どれもごくあたりまえのことだと思います。明るく元気でコミュニケーションが良くとれる人。しっかりと仕事に取り組むことができる人。専門職であれば当然スキルの高さなども求められますが、それだけでなく社会人として基本的な部分も重視するという企業が圧倒的に多いと感じられます。



## 私の趣味・道楽



糸魚川にて愛犬とキャンプ (2001. 夏) ↑

## 父ちゃん、母ちゃんから学生諸君へ



旅の途中にたまたま出会った懐かしいSL ↑

### ◎ 数々ある私の趣味

私の趣味といえば、アウトドアに日曜大工、ツーリング、スキーに祭りと挙げればきりがありません。ドライブも好きで、知らない道や新しくできた道など、どことつながっているのかと思うだけで、とてもワクワクしてきます。しかし、これが仕事となると大きなバスを動かすだけなら良いのですが、朝も早く決められたルートを人間の命を預かって運転することは、好きな事とはいえ、ストレスが溜まります。そんなストレスを発散してくれるのが、数々ある私の趣味です。キャンプに行き、タープをピンと張り、自然の中で焚き火の炎を見つめると気持ちが良く頭の中がカラッポになります。

長岡造形大学に我が子が進学して、もの作りが好きな私は、うらやましくてたまりません。好きな事を学業にできて、学ぶ事ができる。本当にうらやましいです。徹夜で課題に追われている息子を見ると歯がゆい事

もありますが、卒業に向けて彼なりに頑張ってくれています。

休みが合えば、各地の祭りに参加して、神輿を担ぐ日もあります。地域の人々に触れ合って、楽しい一時を過ごす、何よりの楽しみです。肩にズシッと「おれが神輿を上げている」その快感が忘れられないのです。活気と熱気に包まれて体の底から若返ってくるのです。休みが来ると、何をしようかと、次から次へと頭の中を回ります。春夏秋冬、一年を通して、私の趣味は減る事はありません。ストレスを溜めていては、良い仕事できません。うまくストレスを発散して、良い仕事ができる。仕事があって、趣味が楽しめるのだと思います。



新潟県長岡市  
酒井 淳

### ◎ 人生は明るく楽しく

就職するという事は、長い人生においてとても大きな出来事です。これまでまったく関わりのなかった年代や経歴を持つ人達と、これから先ひとつの目標に向かって共に協力しあっていくことになるのです。新しい出会いによって、交際を広げることは大切です。

「いつも明るく元気よく。」  
明るく生きている人は、周りの人も元気にしてくれます。また、いつも明るく笑顔でいると、若く見えたり、健康でいられる力を持っています。人にとっては、まさに良薬です。積極的に持つことが大切なのです。それを持つ事は人生を楽しむ秘訣なのかもしれません。

趣味のゴルフに、石川遼、ローリー・マキロイとともに注目されているダニー・リーの話があります。全米アマで優勝した彼は、マスターズで世界中から押し寄せるメディアの大群に調子を狂わされて予選落ちし、

その後、米PGAツアーで必死の戦いを展開しましたが、なかなか上位に入れない日々が続きました。そんな彼が「タイガー・ウッズの大会」と呼ばれるAT&Tナショナルで7位タイに食い込んで、初めてトップ10入りを果たしました。そのとき彼が発した言葉になるほどとうなずけます。  
I was pushing myself way too hard.  
(頑張りすぎていたんだね。)

学生生活では勉強やアルバイトに精を出し、忙しい毎日を過ごしていることでしょう。気の合う仲間や趣味を持ち、たまには力を抜いてやってみてはどうでしょうか。



新潟県長岡市  
水村 忠彦

最近のイベントや学生活動などをピックアップしてご紹介します。

## 卒業生パネルトーク 開催！

2009.10

10月3日に高校生の皆さんを対象にしたイベント、「秋のNIDay!」を開催しました。当日は、本学の卒業生で現在「週刊少年サンデー超」に連載中の漫画家 田村光久さんと、アニメーターとして活躍中の万年麻美さんを迎えての卒業生パネルトークや、入試対策講座、授業体感イベントなどを行いました。参加者の皆さんからは「校舎の作りが面白い!」「卒業生のお話にはとても刺激を受けました!」など、たくさんの声を頂きました。多数のご参加ありがとうございました!



## 卒業生デザインユニットSPREAD 世界で活躍!

2009.10

世界唯一の国際パッケージデザインコンペティション「PENTAWARDS 2009」で、卒業生小林弘和さんと山田春奈さんのデザインユニット「SPREAD」が銅賞を受賞しました。

## 長岡デザインフェア2009 開催!!

2009.10

2009年10月17、18日に本学を会場として長岡市主催の「長岡デザインフェア2009」が開催されました。「守るデザイン・つくるデザイン・楽しむデザイン」の三つをテーマにし、魅力あふれるブースが会場を彩りました。

## ネックレスとイヤーフックで 新人優秀賞

2009.10

(社)日本ジュエリー協会主催の、「JJAジュエリーデザインアワード2009 新人部門」で卒業生の山田命佳さんが110点の応募の中から新人優秀賞に選ばれました。

## 新時代のダム環境デザインで 最優秀賞受賞!

2009.11

景観開花。実行委員会主催の「2009年土木デザイン設計競技 景観開花。6」で修士1年生の諏佐圭太郎さんが最優秀賞を受賞しました。

## 留学生タンヴィルさん 全国ベスト9!

2009.11

日本建築家協会主催の「JIA全国学生卒業設計コンクール2009」において、修士1年生のケエム イフテカルタンヴィルさんが新潟県代表として卒業研究作品を出品し、全国でベスト9となりました。

## 藤子不二雄®先生 来学!!

2009.11

11月29日に長岡市と(財)自治総合センター主催の「マンガ・アニメシンポジウム長岡\*」が本学を会場に開催されました。当日は「笑うせえるすまん」「忍者ハットリくん」「プロゴルファー猿」など多数の人気漫画の作者である藤子不二雄®先生を中心とした4名の方々に、「マンガ・アニメーションの威力と底力」をテーマに大いに語って頂きました。藤子先生が新聞社でお勤めされていた頃の恋のお話や「トキワ荘」のお話など、盛りだくさんの内容でした。

\*当該事業は財団法人自治総合センター宝くじ普及広報事業の助成によるものです。



## 一般と学生の枠を超え 優秀賞受賞

2009.11

千趣会×JDNクリエイティブコンペティション『1000cc』において、ものデザイン学科の渡辺徹さんが見事、優秀賞を受賞しました!応募作品の中でも学生部門の2作品が高く評価され、一般部門との枠を超えた受賞となりました。

## 学生によるファッションショー 「pick pick jam」

2009.12

12月5日にテキスタイルデザインコースの4年生3名によるファッションショーが学内にて行われました。スペシャルゲストとしてりゅーとびあ専属舞踊団の研修生カンパニーNoism2の方々も参加され、すばらしい演技が披露されました。

## クリスマス作品展

2009.12

2009年12月8日～17日に「クリスマス・くりすます」と題して本学の前学長鎌田豊成先生や多くの教員、卒業生、在学生が参加した総勢35名の作品展が開催されました。

## Editor's Note

早いもので、今年度の卒業・修了研究展の特集を掲載させていただきました。私も毎年、展示を楽しみにしています。私なりの鑑賞のツボとして作者の気持ちを想像してみようということをしています。「研究を始めた頃にはおもしろいアイデアが次々に思い浮かぶ」「小さな壁や大きな壁にぶつかる」「友達との語らいで新しいアイデアをひらめく」「日差しの強い日に、野外で調査をしておもしろい発見をする」「秋の夜に他人にはわからないことで葛藤する」「静かに作品と向き合う夜」など、思い描いてみると、より一つひとつの作品に愛着がわいてきます。

その他に今号では、研究室の活動やデザイン研究開発センターの活動を紹介させていただきました。卒業・修了研究展のことと併せて考えてみると、長岡造形大学では面白いことがたくさん息づいているのだなと感じました。

表紙写真：「ジネーヴラ・ベンチの肖像」

Cover Photo: Sakiko Azegami

Design: Kazunori Yaoita

## 卒業生・校友会会員の皆様へ

### ● 平井教授 最終講義

時間：2010年2月6日(土) 13:00～14:30

場所：103 講義室

1995年度より本学で教鞭をとられ、2004年に発生した新潟県中越大地震では、復旧・復興計画に多大なる貢献をされた平井邦彦教授が本年度をもって退職されます。先生のこれまでのご活動、そして今後の都市防災についてお話しいただく機会を設けました。ぜひ卒業生の皆さんも足をお運びください。

### ● 長岡造形大学校友会

時間：2010年2月6日(土) 15:00～16:00

場所：レストラン

年に1度、卒業生(校友会会員)が一堂に集まる機会です。当日は、卒業・修了研究展も開催されていますので、来学の際は気軽に校友会大会にご参加ください。

・校友会ホームページ <http://www.nid-aa.net/>

編集・発行



Nagaoka Institute of Design  
長岡造形大学

長岡造形大学入試広報課

940-2088 新潟県長岡市千秋4丁目197番地  
Tel. 0258-21-3331 Fax. 0258-21-3343  
E-mail: nyushi@nagaoka-id.ac.jp  
<http://www.nagaoka-id.ac.jp/>